



イノチオグループ

〒441-8142 愛知県豊橋市向草間町字北新切 95

Tel:0532-48-5711

<https://inochio.co.jp>



イノチオグループ

SUSTAINABILITY REPORT

農業を希望にあふれた産業へ





百年変わらない志で、 未来へ挑む

気候変動、食糧問題、貧困、少子高齢化。社会問題がかつてないほど山積する時代。
今私たちに求められているのは、企業活動を通じて社会課題を解決していくことです。

これは、まさに私たちが求めてきた仕事のかたち。

「自分のいのちは、世のため人のため、他に尽くすためにあるとしか思えない」と語った創業者。
その想いは、創業の精神として、今も変わらずに私たちに受け継がれています。

農業は、いのちを支えるために、いのちを育てる仕事です。

農業が、農業による環境負荷以上に生態系の修復や保全、再生につながること。

農業を志す人すべてが農業技術に挑戦でき、しかも利益をあげられること。

農業が次の世代に引き渡したくなる魅力のある産業であり、関わる人たちがみんなが幸せであること。

私たちは、農業を通して、持続可能な循環型社会の実現を目指しています。

世界が目指すSDGsに本気で取り組んでいます。

創業から変わらない想いは、決して変えてはいけない志です。

TOP MESSAGE



イノチオグループは、グループのミッションである「持続可能な循環型社会の実現」によりお客さま・地域・社会に貢献していきたいと考えています。そのためには、変化の著しい社会の要請に応えるとともに、政府の定める「みどりの食料システム戦略」（令和3年5月策定）の方針に対応していくなど、自社の事業内容を再構築する必要性を実感しています。

現在、未利用資源を活用した安全性の高い土壌還元消毒資材や有機肥料の開発、病害虫に強い花卉品種の開発によって薬剤使用の削減につながる低環境負荷技術、施設園芸における再生可能エネルギーの導入とシステム構築、また健康経営の実践など、イノチオグループではさまざまな取り組みに着手しております。しかし、まだ検討すべき課題は多いと考えます。今後は、SDGs志向経営でお客さま・地域・社会に貢献できるように、グループとして優先的に取り組むべきSDGsの重要課題を設定し、本気で取り組んでまいります。

イノチオグループは、お客さまと時代のニーズに合った農業イノベーションを興すべく、全社一丸となって邁進します。

イノチオホールディングス
代表取締役社長 石黒 功

私たちが携わる施設園芸は、栽培施設の暖房設備や灌水、天窓の開閉装置などを活用し、気象環境をコントロールすることで、年間を通じて安定した品質の農産物や花を消費者に提供する役割を果たしています。

一方で、日本の農林水産分野から排出されるCO₂*の34.3%に相当する1,668万トンが燃料の燃焼によるもので、その中の一部は施設園芸での化石燃料の消費によるものです。政府の「みどりの食料システム戦略」の中でも、「2030年には加温面積に占めるハイブリッド型園芸施設等の割合を50%」に、「2050年には化石燃料を使用しない施設への完全移行」という目標が掲げられています。施設園芸技術の進歩・発展を通じて社会に貢献することを目指す当社といたしましても、再生可能エネルギー活用の推進、省エネ技術の開発、環境負荷の低い資材の開発等を通じて、地球環境に優しい、社会のニーズに合った新たな施設園芸の実現に取り組んでまいります。

*日本の農林水産分野のCO₂排出量は約5,000万トン。日本全体の約4%。

イノチオホールディングス
代表取締役副社長 石黒 信生



inochio HISTORY

1909 ● 創業者 石黒利平が愛知県田原市に「石黒薬局」を開設
 創業者 石黒利平 石黒薬局

1917 ● 石黒製薬所 開設 (現イノチオプラントケア)
 過マンガン酸カリの製造方法を発明

1921 ● 農業製造・販売事業を開始

1937 ● 硫酸ニコチンの製造方法を発明
 硫酸ニコチン

1970 ● イングロ農材(株)設立 (現イノチオアグリ)
 石黒綜合運輸(有)設立 (現イノチオ物流)

1984 ● ホームセンター・ドラッグストア事業拡大
 (後に2000年代に事業譲渡)

1991 ● イングロ農芸(有)設立 (現イノチオ農芸)

1998 ● 金子鋼機(株)がグループ入り (後にイノチオアグリに合併)

2005 ● イングロ農芸トマト生産農場を開設

2008 ● (有)精興園、(有)セラマム (後に(株)フローラ世羅に商号変更)がグループ入り

2009 ● (株)加村農薬がグループ入り (後にイノチオプラントケアに合併)

2010 ● グループ 創業100周年

2012 ● 山形日紅(株)、(株)ひまわりがグループ入り
 (後にイノチオ東北に合併)

100周年イベント

2015 ● イノチオみらい(株)、イノチオキャピタル(株)、イノチオホールディングス(株)設立
 イノチオグループとして組織再編
 アグリパーク南陽(株)がグループ入り

2016 ● イノチオつなぐ(株)設立
 (後にイノチオホールディングス・イノチオみらいに合併)
 日本農事(株)がグループ入り

2017 ● イノチオ東北(株)設立
 イノチオ中央農業研究所を開設
 イノチオ中央農業研究所

2018 ● 川合肥料(株) グループ入り
 ラオスの Advance Agriculture Co., Ltd. がグループ入り
 (後にラオス法人K.P. Companyと合併契約し、Inochio K.P. Lao Co.,Ltd.となる)

2019 ● オランダのFloritec Holding B.V. がグループ入り
 イノチオ・フジブランド(株)、イノチオ・スズキヤングブランド(株)設立
 (フジブランド(株)のカーネーション事業を継承)
 SDGs志向型経営を宣言

2020 ● (株)ランドサイエンスがグループ入り
 オランダ農業ハウスメーカーBosman Van Zaal社と業務提携
 生鮮ミニトマトで初の機能性表示食品、「野菜で元気GABA」販売開始
 野菜で元気 GABA

イノチオ精興園の菊「セイフェスト」がジャパンフラワーセレクションで「フラワー・オブ・ザ・イヤー」受賞

2021 ● イノチオ精興園(株) 100周年

2022 ● (株)エノモト農材がグループ入り
 セイフェスト



イノチオグループSDGs志向型経営

当社グループは2020年度からの中期経営計画にSDGsの視点を取り入れ、「環境保全型農業」「持続可能なバリューチェーン」「未来志向の社風づくり」など、5つの重点方針を経営の柱に位置付けました。事業活動を通じ、お客さまをはじめとする農業者と地域社会の持続可能な発展と、全従業員の暮らしを支える経営を進めていきます。

ミッション

全社員一人ひとりの成長としあわせ 持続可能な循環型社会の実現

5つの重点方針

- ### 1/ 環境保全型農業

環境負荷の少ない農業用施設の開発、農薬・肥料の適正使用、適正な農業生産工程管理(GAP)の普及などを進め、環境と人に配慮した農業の実現を目指します。
- ### 2/ 持続可能なバリューチェーン

マーケティング機能を高めて農産物の付加価値を創造し、消費者に安全・安心を提供するとともに生産者の生産性を高めて持続可能な農業を創造します。
- ### 3/ 未来志向の社風づくり

経営効率を高めるデジタル技術の導入と普及、社員の健康づくりやダイバーシティなどを促進し、全従業員が安心して働ける職場づくりを進めます。
- ### 4/ 農業イノベーション

ICT、人工知能(AI)、ビッグデータ、遺伝子情報など先端のアグリテックを駆使したスマート農業を推進し、次世代の農業ビジネスを創造します。
- ### 5/ グローバルパートナーシップ

海外パートナーとの連携により、花き育種の世界ブランド構築やアジアでの食と農のバリューチェーン創造などを進め、世界の農産業振興に貢献します。

未来は、 変えられる。

農業を通じて命の尊さを「みつめ」、その担い手を「そだて」、未来へと「つなぐ」ため、SDGs

人類は発展を求め続け、豊かさや便利さを手に入れてきた一方で、かけがえのない地球を傷つけてきました。しかし、今ならまだ間に合います。私たちイノチオグループは地球環境を守りながら、人々が健康で幸せに暮らせる持続可能な社会の実現に向け5つの方針を制定しました。それが、『環境保全型農業』『持続可能なバリューチェーン』『農業イノベーション』『グローバルパートナーシップ』『未来志向の社風づくり』です。私たちはこの5つを最重要ミッションとし、取り組んでいます。日本の農業における最大の懸案事項は後継者問題です。

農業には重労働のイメージが強く、それが若年層の農業離れの要因となっていました。そのため、ドローンやICT機器等を導入し、作業効率と生産性を高め、農業現場の課題を改善。その上で高付加価値の品種開発や経営支援を行い、農業生産のみで他の産業と同等程度に稼げる産業にします。

また、農業は有機廃棄物を有効活用できる産業でもあります。工場や畜産農家などから出された有機廃棄物を肥料にして畑に施す。他産業で排出された熱を施設園芸のエネルギーとして使う。そうした資源の循環により、農業の可能性を広げる

志向型経営に取り組んでいるイノチオグループ。私たちの描く社会、目指す世界とは、何か。ご紹介します。

きっかけとします。

視点を地球規模に広げると、さらに厳しい現実があります。そこで世界市場向けの新しい花を開発し、生産性を高め、長距離輸送への適性を図ることで経営を改善。農業従事者の収入が安定すれば生活水準が向上し、就学率が上がるという正のスパイラルが生まれます。実際にラオスの子会社では日本の技術を取り入れた農業経営を行い、農業振興の足掛かりとして取り組んでいます。

これらの取り組みで最も重要となるのが「人財」です。当

グループでは、社員全員が健康に働ける環境と学べる機会を用意し、付加価値を還元することで個々のやりがいと働く満足に応え、成長と活躍を支えていきます。

私たちの描く持続可能な社会を目指す上で不可欠な要素は資源の循環とテクノロジーであり、それは正に車の両輪。そしてこの両輪を回すエンジンがビジネスとしての成功です。そのため農業経営を支援し、イノベーションを興し、農業を魅力的な産業にする。そして皆が幸せを享受し、笑顔になる。そんな社会を私たちは目指しています。



前年度取り組み結果

重点方針	BU	テーマ	主な取り組み	2021年度目標	実績	達成度
環境保全型農業	フラワー	経営・技術	● 病害に強い花き品種の開発	● 病害抵抗性の評価と花き育種への活用	● 社内での評価系構築と検証を実施 ● 病害耐性のある品種を交配計画に組み込んだ	○
	ファーム		● トマト高品質苗 自社生産技術確立とマニュアル化	● シングル実生苗製品率90%以上の管理手法確立	● 一部品種で製品率91%達成	○
	アグリ	エネルギー	● 再エネ冷暖房技術の販売開始	● 排気・蒸気・地下水熱利用等再エネ技術調査、選定	● 技術の調査を実施(継続)	△
			● 環境配慮型商品への切替	● 商品・分野のリストアップ、目標数値設定	● 推進商品の選定	○
プラントケア	農業・肥料	● バイオスティミュラント推進	● バイオスティミュラントを活用した自社製品開発	● 国内各地で勉強会や試験を実施 ● 基礎活性試験などでバイオスティミュラント効果のエビデンス取得を進行中	○	
		● 土壌環境最適化技術の確立	● 未利用有機資源を活用した製品開発、土壌診断分析結果にもとづく施肥設計提案実施	● 未利用資源を活用した製品開発に着手 ● 土壌診断提案を強化し診断数は増えたものの、施肥設計や提案に課題 ● 設計システム進化や営業担当者の教育機会を設計中	○	
持続可能なバリューチェーン	プラントケア	セールスサポート	● バリューチェーン構築連携による契約産地づくり	● 自社ブランド(うま野菜)栽培技術確立、生産者への栽培支援・資材提供、新規販路開拓	● 着手はしたが、事業撤退	×
	ファーム	サプライチェーン	● 穂菊苗サプライチェーン構築により総廃棄率2%以下へ	● 自社営農支援部門と連携した受注確認活動実施、生産現場への指導、穂菊品質管理基準策定	● 廃棄率0.21%(国内0.03%、現地0.18%)と達成	◎
	アグリ		● グループ物流網最適化	● 人員配置最適化による運送業務コントロール改善	● 社内物流改革プロジェクトの開催	△
未来志向の社風づくり	HD	働きやすい職場	● 全従業員が安心して働ける会社づくり	● 災害リーダー10名育成、リスク管理担当部署設置、各種意識調査の実施	● 災害リーダーを12名設置し、東日本大震災被災地を訪問 ● 統合リスク管理室が設置され、コンプラ・海外拠点・財務等リスクの定期監視を着手 ● 幸福度診断をもとにWell-beingデーを開始	◎
			● 健康経営による社員の健康づくり	● グループ企業5社で健康経営優良法人を取得	● グループ企業5社で健康優良法人取得達成	◎
			● 障がい者雇用、女性管理職の登用	● 女性管理職・リーダー数20名	● 女性管理職20名、障がい者雇用4名達成	◎
			● デジタル化推進による働き方改革	● ペーパーレス化・電子化・デジタルツール活用社内推進	● 各業務改善活動により、約11,000時間の時間削減 ● コミュニケーションツールの統一化により、コスト削減	◎
農業イノベーション	プラントケア	スマート農業	● ドローンを活用したスマート農業推進	● ドローンオペレーター育成、新たなソリューションの提供(センシング解析・スマート追肥、防除等)	● 山形に加え、愛知県豊橋市に教習所開設。ドローンによる防除請負を拡大 ● センシングやスマート追肥試験を山形、愛知で展開 ● 農業用無人車R150の取り扱い開始	◎
	アグリ		● お客様の経費削減・生産性向上に貢献する商品開発	● 省力化と生産性向上を実現する大規模・低コストハウス開発 ITを活用したスマート農業ツールの開発	● オランダ製大型次世代ハウス、新型複合環境制御機器「IIVO」、農業専用労務管理ソフト「agri-board」等の新商品の本格販売開始	◎
	プラントケア		● デジタルツールを活用した技術支援サービスの提供	● 顧客ニーズに対応できる簡易施肥設計システム導入、遠隔サポートに対応した技術支援・営農相談体制の構築	● 自社研究施設と連携し、施肥設計システムを改良・用途拡大に成功 ● Webを活用した技術研修会の開催、参加者層を増やすなど取り組む	○
	ファーム		● データ活用による時間当たりトマト生産量向上	● 生育・収量・環境・市況データを活用した栽培管理、労務データの収集と可視化	● 時間当たり生産力 前年比110%に向上	◎
グローバルパートナーシップ	フラワー	花き	● 海外での新品種上市、パートナーシップの強化	● 海外での共同育種、試作栽培実施	● 海外自社拠点とデジタルツールを活用し、試作を実施	○
		人財育成	● グローバル人財の育成	● 海外人財採用、国内での育成体制構築	● 海外PJ推進チームの立ち上げと海外拠点への出向者の準備を実施した	○

今年度取り組み

重点方針	BU	テーマ	主な取り組み	2022年度目標
環境保全型農業	フラワー	経営・技術	● 病害に強い花き品種の開発	● 製品化候補3種選抜 ● 病害抵抗性の評価の確立
	ファーム		● トマト1kg当たりのCO ₂ 排出量削減	● 1kg当たりのCO ₂ 排出量 2kg以下
	アグリ	エネルギー	● 環境配慮型商品への切り替え	● 取扱商品のCO ₂ 排出量2.5%の削減
			● 再エネを活用した環境負荷の低い冷暖房技術の普及	● 技術・商品の選定と試験の開始
プラントケア	農業・肥料	● 有機農業の取組支援	● 未利用資源を活用した商品開発3件 ● 有機JAS適合商品登録5件 ● 有機農業推進団体への参画、ネットワークを構築	
		● マイクロプラスチック	● 非プラスチック被覆肥料の普及推進 ● 脱プラスチックの施肥技術研究	
	● 農業・肥料	● バイオスティミュラント推進	● バイオスティミュラント資材の普及推進 ● 現地普及試験、勉強会の展開加速	
持続可能なバリューチェーン	アグリ	サプライチェーン	● 国内物流網拡充	● 全国での物流連携体制構築
	フラワー	花き生産	● 適性品種と栽培環境の改善による出荷できない切花の廃棄減少	● イノチオフローラでの秋系スプレー出荷、採花率アップ

重点方針	BU	テーマ	主な取り組み	2022年度目標
未来志向の社風づくり	HD	働きやすい職場	● コーポレートガバナンス強化とグループ経営最適化	● 災害本部体制強化 ● キャッシュマネジメントシステムによる資金最適化、コスト圧縮
			● フィロソフィがベースの人材教育	● 人事評価基準見直し ● 教育カリキュラムの体系化 ● フィロソフィ・Well-beingのグループ浸透
			● デジタル化推進による働き方改革	● 既存デジタルツール社内浸透促進 ● CRMデータを活用した業務効率化
農業イノベーション	プラントケア	スマート農業	● ドローンを活用したスマート農業推進	● ドローンによる請負防除事業フランチャイズ化 ● 用途拡大に向けた各種試験の実施
	アグリ		● 作物生産時の省力化・生産性向上に貢献する自社製品開発	● ハウス内環境制御システム・周辺機器のバージョンアップ・次世代型ハウス開発
	ファーム		● データ活用による時間当たりトマト生産量向上	● 1時間当たり生産力:大玉13kg、中玉8kg、ミニ6kg(通期) 果実廃棄率:大玉7%、中玉5%、ミニ7%(通期)
グローバルパートナーシップ	フラワー	花き	● 菊苗 海外での新生産地開拓	● 品質基準等 各種基準をクリアし、2023年の本生産へ移行
			● 苗のグローバルサプライチェーンの強化	● 穂木廃棄率の低下

01 > 環境保全型農業

私たちは、“農業は、いのちを育て、いのちを支える仕事”であると考えています。
私たちは“いのちの仕事”をしている自覚を持ち、
環境と調和した持続可能な農業の普及に取り組んでいます。



私たちの目指すところ

- 地球環境と人々の健康に配慮した持続可能な農業の実践
- 食品安全、労働環境、環境保全の国際基準に沿った農業の実践と普及

病虫害に強い品種で、 持続可能な農業の実現を目指す

イノチオ精興園では病虫害に強い品種の開発を目標に掲げています。近年、温暖化の状況下で、夏場の温度が上がり高温期の病虫害による影響が発生しやすくなってきています。植え付けした後に大量の欠損が発生することになれば、お客さまの収入に直結し、深刻な問題に発展することもあります。病虫害に強い品種を開発することで問題を回避し、加えて予防のための薬剤散布の量や回数を軽減させることができます。それはお客さま自身の健康維持、近隣への薬剤飛散および土壌や水への流出や残留の軽減となり、持続可能な農業へとつながります。

また、イノチオグループの맘(菊)を世界に展開していく上で、海外では農業の使用禁止事例が増えてきており、課題を解決する品種がさらに求められるようになってきています。病虫害に強い品種の作出は私たちの今後の大きな役目です。



有機肥料とバイオスティミュラントで、 豊かな土壌と健康な作物を

イノチオグループでは、食肉加工残さや家きんふんなど厳選された資源から肥料を開発し、新たな価値観を創造する循環型ビジネスに取り組んでいます。今、地球上の農耕地の1/3が土壌劣化によって農業生産できなくなっているといわれています。有機肥料は土壌微生物にも働きかけ、土壌を豊かにすることで、持続可能な農業生産に貢献しています。

グループ会社の川合肥料では、長年の信頼と全国に広がるネットワークを生かした有機肥料の開発・製造・販売を行っています。また、バイオスティミュラントの普及活動にも注力しています。これは農業や肥料だけでは解決できない植物の非生物学的ストレスを緩和し、植物の健康的な生育に貢献する資材として注目されています。



02 > 持続可能なバリューチェーン

農産物がくらしの豊かさや潤いとなって、生活者の日々が届くまで。
私たちは農業の生産現場だけでなく、
農産物が消費者に届くまでのフードバリューチェーン全体を意識し、
より環境負荷が少ない持続可能な農産物の流通、物流事業に取り組んでいます。



私たちの目指すところ

- 生産から販売までのバリューチェーン改善を通し、環境負荷を軽減
- 生活者ニーズを満たす製品の開発

持続可能な農業を次世代へ！ 進化するグローバルGAPへの取り組み

イノチオグループでは、グローバルGAP認証の更新審査で今年初めて「是正項目ゼロ」を達成しました。200以上のチェック項目をクリアし、食品安全、労働安全、環境保全に配慮した国際基準の農業を継続して行っています。

このグローバルGAPに沿った農業を行うことは、栽培から出荷までに起こりうるあらゆるリスクを事前に防ぐことにつながります。例えば、食品ロス削減や安心して働ける環境づくり、適正な農薬使用などです。イノチオグループの生産圃場では、従業員一人ひとりがグローバルGAPの理解を深め、組織全体で取り組むことができるよう社内の理解浸透にも注力しています。また、自社で取得したノウハウと経験を活かし、認証取得を目指す方々の支援も行っています。

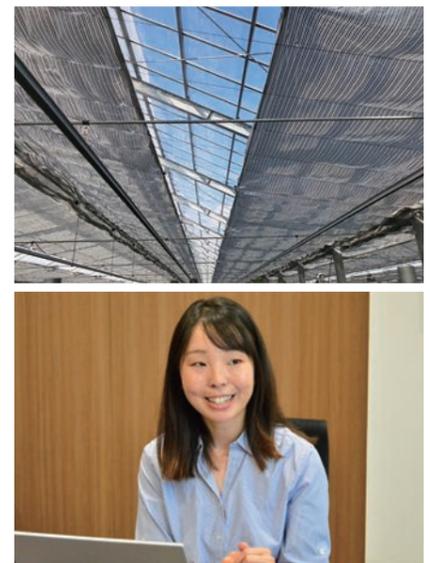


お客さまの声を形にすることで、「続けられる農業」を支援

イノチオグループが開発した農業用ハウス内張りカーテン「なつみスクリーンシリーズ」は、お客さまの声から生まれたオリジナル商品です。内張りカーテンは、ハウスの内側に設置する資材で、遮光・遮熱・保温・日照調整など、目的に応じて使用します。施設園芸では必須の資材ですが、紫外線などで劣化するため、数年ごとに張り替えが必要となります。

なつみスクリーンシリーズは、設備投資に悩むお客さまの声を聞き、機能性と経済性が両立する商品を提供したいと開発しました。高品質でありながら比較的購入しやすい価格で提供することで、農業は、より持続可能な産業になると私たちは考えます。また、なつみスクリーンシリーズの中には、環境に配慮した商品がほしいという要望に応え、原料としてペットボトルのリサイクル樹脂を採用し、CO₂の発生を27%抑えた商品もあります。

今後もお客さまの声に耳を傾け、より多くの方に支持される商品の開発を目指します。



03 > 未来志向の社風づくり

「全社員一人ひとりの成長と、生活を支え、やり甲斐のある仕事を実現する」

私たちの目的の一つは、一緒に働く仲間の“成長と幸せ”です。

常に公平で、人として正しいことを貫くことのできる社風を通し、

グローバルでチャレンジ精神あふれる人財育成に取り組んでいます。



私たちの目指すところ

- 社員一人ひとりが働きがいと生きがいを感じられ、成長できる職場環境をつくる
- 社員の成長の先の持続可能な循環型社会の実現に貢献する

全ての人に働きがいのある仕事を。

障がい者の法定雇用率を達成

イノチオグループでは、障がい者雇用にも積極的に取り組んでいます。昨年、イノチオプラントケアがグループでは初めて障がい者の法定雇用率を達成しました。SDGsで掲げている「働きがいのある仕事」を提供するため、定期的な面談やコミュニケーションを図りながら障がい者の方の不安を取り除き、信頼関係を築くことに力を入れています。

誰一人取り残されない社会を目指して。一人ひとりと真摯に向き合い、助け合うことで、障がいがあっても長く働き続けられる会社をイノチオグループは目指しています。



Well-beingを実践し、心身ともに健康に生きる

イノチオグループが積極的に取り組んでいることの一つにwell-beingがあります。Well-beingとは、身体的にも、精神的にも、社会的にも満たされた良好な状態にあることをいいます。価値観が多様化する社会において、性別や考え方、ワークスタイルに関わらず、個性が尊重され、意欲的に仕事に取り組める環境を整えることは、well-beingを実践するうえで重要です。そのために、時間外労働削減のための施策や各種休暇の取得促進、心身の健康を維持向上するための社内研修、働き方にとらわれない柔軟な勤務体系の導入など、さまざまな取り組みを行っています。

従業員一人ひとりが、働きがいを感じ、個人の力を最大限発揮できる生産性の高い企業グループを目指していくことが、お客さまやよりよい社会の発展につながると考えています。



04 > 農業イノベーション

農業は人が生きていくために、最初に生まれた産業です。

いわば、文明の原点であり、産業の原点であり、人間のいのちを支えてきた大切な仕事です。

私たちは、日本の農業における様々な課題を真摯に受け止め、

異業種やスタートアップ企業とのオープンな連携を積極的に行い、農業界にイノベーションをもたらします。



私たちの目指すところ

- スマート技術を活用し、だれもができる持続可能な農業の実現

ドローンを利用した次世代農業へ

イノチオグループでは、農業用ドローン導入のサポートを行うことで、これまで大変な労力と時間を必要とした農薬散布などの作業を、より精密に、そして作業効率も飛躍的に向上させるスマート農業への貢献を目指しています。

農業従事者の減少と高齢化が進む中、ドローンを使うことで、高齢者や女性、操作のみ行うパートナーなど農業に携わる新しい力を獲得することが期待されています。また、農薬散布には大量の水を必要としていましたが、ドローンによる散布では高濃度にした農薬の少量散布や、AIによる画像診断により、病害発生ポイントに絞って散布することも可能なため、限りある資源を有効活用した環境にやさしい農業の実践にもつながります。

農業の未来に向けて多くの可能性を持つドローン事業は、用途範囲を広げるべく、今後も様々な試験を行っていきます。



限られた資源を有効活用。

環境に配慮した農業の実現に向けて

イノチオアグリートのビートシリーズは、10年以上の販売実績がある灌水制御盤アクアビートと、生産者目線で開発され最大10区画まで対応可能な環境制御装置エアロビートをメインに構成されています。作物の生育に最適な環境をつくりだすために必要となる適切なデータ収集、わかりやすい視認性、簡単な入力操作ができます。安価な導入コストによって費用対効果を高めることもできるため、お客さまに評価されて販売台数を伸ばしてきました。機能が高く、使い勝手のよい環境制御機器は作物の生産性を向上させます。そしてそれは作物生産のために投入する化石燃料、肥料、水などの資源をより効率よく利用できていることを意味します。

限られた資源をより有益に使うために、これからもビートシリーズは進化を続けていきます。



05 > グローバルパートナーシップ

創業より守り積み重ねてきた社は、
生きとし生けるものすべての「いのちに感謝し、いのちを育む」。
この原理原則を大切に、「いのちをつなぐ」という使命の下、
新たな「つながり」の時代を生き抜きます。



私たちの目指すところ

- アジアで食と農のグローバル・バリューチェーンパートナー構築
- 花きの育種開発力で世界ブランドへ
- グローバルな人財ネットワークの構築

視野を広げ、独自の品種で新たな価値創造を

マム(菊)の育種を行っているオランダのフロリテック社が2019年にグループに仲間入りしました。それから毎年お互いの品種の交換を行いオランダ、日本両国での試験を開始しています。フロリテック社の品種を日本で栽培し、気候に適した品種を選ぶことによって、お客さまにご提案できる花の選択肢が広がりました。今後は、弊社の品種をフロリテック社と協力し、世界のマム生産者へ提案していきます。

オランダの他、アジア、南米などマムは世界中で作られており、その土地に適した品種が必要です。品種開発を通して他社にない、独自の品種を世界中で作っていただくことによって、現地での雇用を創出し経済成長につながってほしいという思いがあります。また海外のブリーダーと触れ合うことで、海外のマム生産者の方の声を聞く機会が増え、視野が広がり、育種の幅も広がってきたと感じています。今後もグローバルパートナーシップを通じて花業界の発展に貢献していきます。



世界で農業を支える人材の育成をめざして

イノチオグループは、アジア圏でも特に発展著しいラオスでの農場経営にも着手しています。Inochio K.P Laoでは、露地野菜やバタフライピーの生産を行っており、このほど国際基準の農業生産が行われていることを意味するグローバルGAP認証を取得しました。ラオスで国際基準に沿った安全な農業を行うことは、現地での雇用創出による貧困の解消にとどまらず、世界で農業を支える人材を育成し、アジアの農業の活性化につながると私たちは考えます。

気候や農業を取り巻く環境が、日本とは大きく異なるラオス。そこでの農場経営は、私たちにとっては大きな挑戦です。ラオスの特長を活かした付加価値のある作物の生産、流通の確立に今後も取り組んでいきます。



ステークホルダーからの第三者意見

持続可能な農業の実現に向けて、最新情報の提供に期待



弊社がSDGsへの取り組みを検討し始めた際、イノチオグループから、その挑戦は時代と社会の要請であると全面的に支持していただきました。

しかし、今後もSDGsを推進していくためには、自社だけで行っている情報収集には限りがあり、環境負荷低減のための肥料や農薬・断熱資材といったイノチオグループからの商品提案は欠かせません。

時代を先取り、いち早くSDGsに取り組んでいるイノチオグループを信頼しています。

うれし野アグリ株式会社さま

循環型農業に向けて、ともに歩むパートナー



豊橋市は全国一の鶏卵の生産地です。鶏を飼育することで出る家畜排せつ物の量は決して少なくはなく、水質汚濁や富栄養化防止のため適切に管理することと同時に、バイオマス資源としても期待されています。

当農協には堆肥工場があり、組合員さまから鶏糞を受け入れ、イノチオグループ・川合肥料の技術と原料でボカシ肥料を製造しています。鶏糞を肥料化して土壌に返すことで、将来にわたって農作物を安全、かつ安定供給する持続可能な農業が実現すると考えています。

イノチオグループには、農業の発展と環境保全につながる技術の開発・取り組みを今後も積極的に行っていただくことを期待しています。

豊橋養鶏農業協同組合さま

若い世代に新しい農業技術への期待と憧れを



イノチオグループが運営するドローン教習所で、当校農業環境科2年の生徒が、家業の水稲栽培を大規模化したいと農業用ドローンの免許を取得しました。在学中の取得は例がなく、他の生徒にも意欲的な姿勢がみられるようになりました。

地域の農業の担い手不足の状況は深刻になる一方です。イノチオグループには、今後も若い世代が憧れるような新しい農業技術を幅広く紹介していただき、資格取得のサポートを期待しています。

山形県立村山産業高等学校さま

社会貢献、その他の取り組み

事例01 イノチオ精興園100周年記念活動／地域清掃活動・市民向け花のワークショップ・チャリティ販売

2021年に創業100周年を迎えたイノチオ精興園。100周年記念事業として、地域の清掃活動やイノチオ精興園本社のある府中市とコラボレーションした花のワークショップを開催しました。

また、100年を振り返るイベントでは、切り花や苗のチャリティ販売を実施。売上金額は音楽療法に取り組む府中市社会福祉協議会さまへ楽器を、福山市社会福祉協議会さまへはポッチャの用具一式を提供しました。



事例02 地元団体へお米寄贈

NPO法人東三河フードバンクと田原市社会福祉協議会へイノチオグループの研究所で栽培されたお米750kgとさつまいもを寄贈しました。寄贈した食品は、ひとり親家庭や障がい者、社会的養護が必要な子どもなどを支援する福祉施設や子ども食堂などに提供されます。



事例03 規格外のミニトマトを動物の餌として寄付

イノチオみらい株式会社は、地元動物園の動物スポンサーとして、週に1度、落下などにより出荷できないミニトマトを寄贈しています。

この取り組みは食品ロス削減と動物園の経費削減という双方への効果が期待できる取り組みです。



事例04 健康経営優良法人 5社で取得

イノチオグループはイノチオホールディングス、イノチオアグリ、イノチオプラントケア、川合肥料、イノチオ精興園の5社で健康経営優良法人2022を取得しました。

今後も、従業員が心身ともに健康で、働きがいを感じることのできる職場環境整備の取り組みを継続して行います。



事例05 脱炭素経営を目指す、脱炭素促進ネットワークへの加入

イノチオグループは環境省の脱炭素経営促進ネットワークに目標設定会員として加盟しました。

このネットワークは、地球温暖化対策に積極的な企業やそれらを支援する企業の集まりで、パリ協定に整合する目標設定に向け、会員企業とノウハウ共有を行うことや、連携体制を築いていくことを目的としています。



事例06 イノチオ物流「グリーン経営認証」「働きやすい職場認証制度」への登録

イノチオ物流では、環境保全を目的とした取り組みを行っている運輸事業者であることを証明するグリーン経営認証を取得しました。また、働きやすい職場認証制度も取得し、物流現場の働き方改革に力を入れています。



グループ概要

5つの専門分野で農業を総合支援

イノチオグループは4つのビジネスユニットと1つのホールディングスカンパニーで構成されています。アグリ・フラワー・プラントケア ビジネスユニットはお客さまを支援する中核事業で、農業のさまざまな面にわたって事業を展開しています。一方、生産者と同じ目線のファームビジネスユニットは新しい時代の農業を支える技術・人材を育成し、市場と生活者に農業の魅力を届けます。ホールディングスは4つのビジネスユニットを統括し、各ユニット間でのシナジー効果を生んでいます。



数字で見るinochio ※2022年8月現在

創業1909年

創業したのは1909年、明治42年のこと。100年を超える歴史を持つグループです。

グループ会社数20社

イノチオグループは20の会社で構成し、日本国内だけでなく、海外まで広がっています。

売上高311億円

農業を総合支援するグループとして成長していきます。(2022年3月期)

女性43%、男性57%*

誰もが働きやすい職場づくりに努め、多様な人材が活躍しています。(派遣社員・パート・アルバイトを含む)

平均年齢42.1歳*

若手からベテランまで年齢層に偏りがなく、バランスの良い構成です。

従業員数1013人*

多くの仲間が農業を支えるために日々活動しています。(派遣社員・パート・アルバイトを含む)

女性管理職の割合8.6%

女性が能力を発揮できる職場環境整備を推進しています。

従業員一人当たりの教育研修時間

19時間
費用 59,700円
従業員一人当たりの教育研修費用 59,700円
従業員の成長をサポートするため、学びの機会を大切にしています。